

栄養管理委員会の現状と未来

新 田 多智子

キーワード：経口・経腸・静脈栄養；栄養サポートチーム；病院給食経営

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 169-170)

はじめに

栄養管理委員会は、診療局、看護部、医療技術部、事務部より選出された委員（現在15名）で構成され、2カ月に1回の開催で運営している。所掌事務を以下の通り要綱に定めている。①患者の食事療養及び経腸栄養に関すること ②患者の静脈栄養に関すること③食中毒又は災害発生時その他非常時の対策に関すること ④栄養サポートチーム（nutritional support team、NST）に関すること ⑤その他栄養管理に関すること。

活動の変遷

この委員会は、昭和46年「給食委員会」の発足から「栄養管理委員会」へと名称は変わったが、脈々と続いており、諸先輩方の病院給食経営への熱意を次世代へ引き継ぐ使命を感じている。当時の記録をみると、医長・看護婦長・事務長・各係長・栄養士・調理師で構成されており、院内における食に対する理解を深め連携につなげていたようである。現在も同様に患者にとってより良い食事とするための対策、そして、改訂毎に栄養部門（特に食事療養費）の診療報酬減であるが、その中で出来る経営健全化対策や提供できるサー

ビスについて、審議を行っている。

また、何度かの機構改革を経て、平成23年4月より「栄養管理委員会の中に栄養サポートチーム（NST）を置く」と定められた。それまでNSTは院長直属であったが現在は、活動内容・診療報酬に関わる事項など委員会内で報告・相談を行っている。NSTは医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・療法士・管理栄養士など多職種で専門知識を持ち寄り、治療を栄養面から支える医療チームである（図1）。NST稼働から15年を経ているが、啓蒙活動・スタッフの育成などが課題である。

今後に向けて

診療報酬改訂や、他部門との協力体制、食中毒・災害発生時等の非常時対策、炊き出し訓練の実施など、この委員会で語ることで、少しずつ前進出来ているというのが実感であり、多職種で食に関して議論できる委員会の場は貴重であると改めて感じている。患者中心の栄養管理と経営観念を両輪と考え、他部門の力を借りながら栄養管理委員会、NSTの運営を今後も担ってゆきたい。

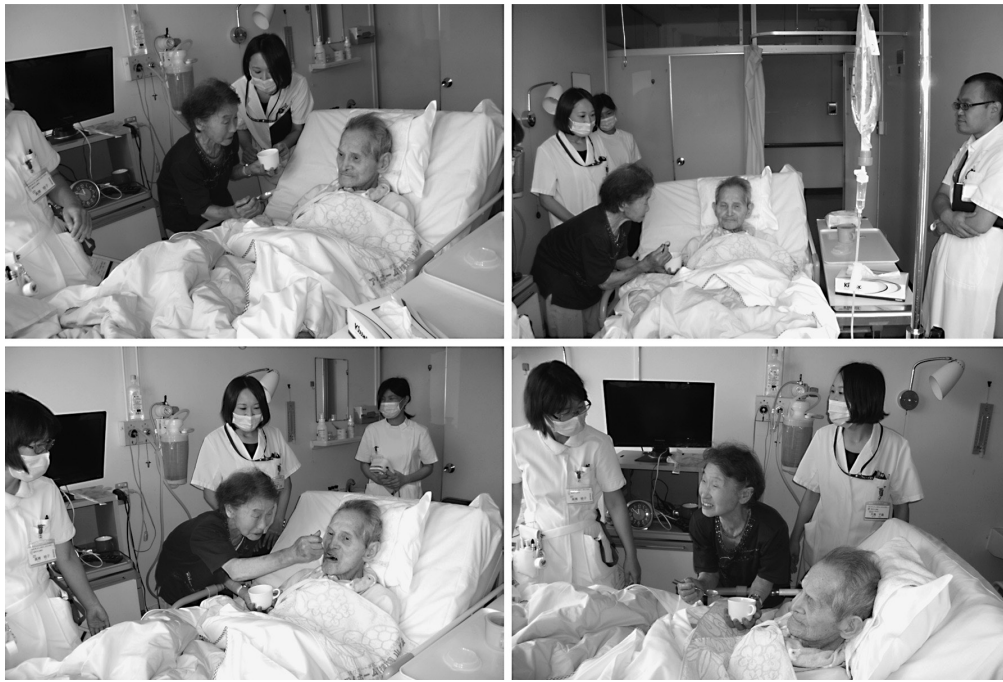


図1 NSTの活動

Present status and future perspective of the committee for nutrition management in Unnan City Hospital.

Tachiko Nitta

Committee for nutrition management, Department of clinical dietary, Unnan City Hospital
Correspondence: Tachiko Nitta, Department of clinical dietary, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane
699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: un-eiyou@hotaru.yoitoko.jp